

西合志図書館天文台 中秋の名月特別観望会

【日程】令和2年 10月1日(木)
【時間】午後7時～午後9時30分
【場所】西合志図書館天文台



望遠鏡で夜空を眺めてみませんか？

毎週土曜日に開放している、[西合志図書館天文台](#)。
1年のうち特別な夜は特別観望会を開催しています。

今回は中秋の名月特別観望会を開催します。美しい名月(十五夜)と秋の星空を天文台から眺めてみませんか？

対象：合志市在住の方（先着30名）

※事前申し込みが必要です(9月3日(木)より受付開始)

※雨天・曇天、または状況により中止する場合があります。

感染症予防対策として、マスクの着用・アルコール消毒・検温にご協力ください。

中秋の名月って???

「中秋」は旧暦の秋(7,8,9月)の真ん中で、8月15日のことを意味します。現代の暦に当てはめると、大体9月中旬から10月初旬がその時期になります。旧暦では月の満ち欠け周期の約半分にあたる15日が満月になると考えられていました。そこで、「名月」と「満月」という言葉を合わせて「中秋の名月」=「旧暦8月15日の夜を照らす満月」と言われるようになったのです。

「中秋の名月」といえば「お月見」という習慣がありますが、当初は庶民に全く習慣がなく貴族たちが「月」を眺めながら宴を楽しむ、観賞するという意味合いが強かったようです。

現代のように一般的になったのは江戸時代ですが、それでも江戸時代前期はお供えする習慣はまだなく収穫した芋煮を食べながらお月見をしていたようです。江戸時代後期になると収穫に感謝して、お供えをしてお月見をするようになっていったと考えられています。昔は月の満ち欠けにより月日を知り農民たちは農作業を行っていました。月に対する感謝の表れが慣習の変化につながったのかもれません。

